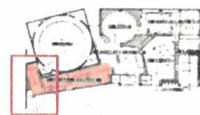


展示・プレゼンテーション事業 実物資料候補(抜粋)


2 災害の始まり

2-1 事故前の暮らし


事故前の原子力発電所周辺の暮らしはどのようなものだったのか？祭りや行事、学校生活、商店の賑わい、地元の経済を支えていた各種産業など、日常を形作っていたものごとを記録や証言を通し、描き出す。



・学校生活に関する実物資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
1		学用品	・通学で毎日使用していたランドセルや手提げ鞆	○○○ (○○○ ○)	○○○	○
			※その他、学校生活の日常が伝わる資料として、当時使用していたノートなど学習用具を検討中。			

・地域の(生活)伝統(行事、祭り)を伝える実物資料

2-1		・だるま市のダルマ	・双葉町の「だるま市」は、江戸時代から続く双葉地区の正月の伝統行事。縁起物のダルマは今年一年の家内安全や豊作を祈る飾り物として持ち帰り家に飾る、地域の伝統行事が分かる資料。	双葉町	双葉町	内諾済
2-2	Photo Photo	・だるま市会場案内位置図及び出店リスト		双葉町	双葉町	内諾済
			※その他、双葉郡町村を中心に伝統行事等の資料を検討中。			

・原子力発電所の広報、地域との関係に関する実物資料


No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
3		・原子力発電に関する広報ビデオ	・地域の小中学生が一度は訪れた福島県原子力センターに残された広報ビデオ。電気発電の歴史と原子力発電の重要性や原子力発電の明暗について語られている。ほかには原子力防災に対する福島県の日ごろの訓練の様子を伝えるビデオ記録も残されていた。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県 (資源エネルギー庁)	○
4		・『原子力を考える日』体験学習の感想文	・地域生活に光をもたらした「発電所」に対する感想文をまとめた冊子。  ※体験学習をととしての感想文の1つを見開き展示予定(以下一部抜粋) 【体験学習で学んだこと】 昔は、くつも買えなくて、田んぼの仕事の無い冬には東京へ出かせぎに行ってたのに、発電所を作ったおかげで人口がふえて、車も買えるような大金持ちも現れて来たのですごいです。」	大熊町 (大野病院)	福島県	○
5		・地域に配布された広報誌など	・発電所と地域交流の記録資料。福島県原子力広報協会が原子力に関する知識の普及啓発のために発行していた広報誌。地域教育に対する支援事業の告知や、健康情報、料理づくりの記事等で構成され、地域住民や家族構成などを考慮した内容となっている。	大熊町 (旧原子力センター)	福島県	○

## 2-2 東日本大震災—地震と津波の記録—




原子力発電所事故のきっかけとなった地震と津波の被害について、当時の映像や被災した実物資料を通して伝える。また、地震・津波発生前の穏やかな時の流れと、被災後の状況を対比し、被害の大きさを感じてもらう。





### ・発災時間の記録

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
6		・地震の時間を示す時計	保原高校美術準備室の壁面にかけてられていた。	伊達市 (保原高校)	保原高校	○
			※津波到達時に停止した時計についても展示検討中。			

### ・地震による被災痕跡

7		・地震で変形したグレーチング	〇〇〇〇〇〇〇〇が管理する 〇〇〇〇〇〇〇〇〇の周囲 (の側溝)に置かれていた。地震により固い金属でできたグレーチングが激しく変形した。	〇〇〇〇 〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	○
8-1		・地震により落下した蛍光灯 (〇〇〇〇〇 〇〇〇体育館)		〇〇〇	〇〇〇	交渉中
8-2		・地震により落下したステージ上の天井板 (〇〇〇〇〇 〇〇〇体育館)	※震災直後の体育館の様子が分かる写真と合わせて展示予定	〇〇〇	〇〇〇	交渉中

・津波による被災痕跡

9		・津波被災郵便ポスト	双葉町中野地区で津波ガレキを片づける中で発見された。潮水に浸水し、さらに塩分を含んだ砂がポスト内部に大量に侵入した。また、このポストは基礎のコンクリートごと流されている。	双葉町	日本郵政	○
10		・津波被災交通標識	双葉町中野地区で津波ガレキを片づける中で発見された。根元からもぎ取られており、基礎部分は残されていない。また、他の漂流物と衝突した痕跡がある。	双葉町	双葉町	○

2-3 原子力発電所事故の発生

津波到達後、原子力発電所で起きた事象について、原子力発電所模型や解説映像によりたどっていく。



・原子力発電所の事故発生を伝える新聞

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
11	Photo		※原子力発電所事故発生から1週間の記事のうち、4種程度展示予定。(民報・民友)	—	福島民報社、 福島民友新聞社	交渉中

・原子力発電所事故による(特有な)痕跡

			※原子力発電所事故により立ち入りが制限され、長期にわたりそのままになっていたことがわかる資料を検討中			
--	--	--	--	--	--	--

・原子力発電所事故に対応した当事者の記録


12	Photo	・電源復旧用電源ケーブル	第一原子力発電所が水素爆発の危機に見舞われていた頃、第二原子力発電所でも、原子炉が危機的状況に陥っていた。地震と津波により原子炉の冷却に必要な海水ポンプが水没し、それらの電源も失われてしまったのだ。しかし、廃棄物処理建屋にある外部電源が唯一回線生きていたため、当時の第二原子力発電所所長はその電源と800メートル離れた冷却装置のある建屋をケーブルでつなぐ指示を出した。総延長9kmの両手に余る太く重いケーブルをつなぐ作業は、通常であれば機器を使っても1ヶ月かかる重労働。これを人力でたった1日で行ったのだ。ケーブルが無事繋がり、冷却機能が復旧したのはベント危機リミットの2時間前であった。  【参照】東京電力HP、ハーバード・ビジネス・レビュー誌「そのとき、福島第二原発で何があったか」	同等品(新品) 購入・展示	—	購入準備中
			※当時対応の際に使用されていた資料等について展示検討中。			

## 2-4 災害対策本部の記録

かつて誰も経験したことのない事態に直面し、懸命に対応した人々の記録を、当時の映像や実際に使用されていた実物資料を通して、当時の緊迫感とともに伝える。



### ・国、県、市町村の対策の記録

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
13		・各行政機関の災害記録(国・県・市町村、医療・消防等)	※常設展示内では数点を見開き等で展示。閲覧については、資料閲覧室等での対応を検討中。	—	—	○

### オフサイトセンター及び原子力センター

14		・福島第一原子力発電所周辺図	いずれか1点展示	大熊町(旧OFC)	福島県	記載内容要確認
15-1		・住民安全班の机に残された備品		大熊町(旧OFC)	福島県	
15-2		・OFC防災資材セット		大熊町(旧OFC)	福島県	
16		・当時の状況を記載したホワイトボード		大熊町(旧OFC)	福島県	記載内容要確認
17		・鉛の遮蔽版(県原子力センター)		大熊町(旧原子力センター)	福島県	○





### 3 原子力発電所事故後の対応

#### 3-1 避難の開始

避難開始当時を振り返る証言を通し、先が見えない状況で故郷を離れ、避難所を転々と移動しなければならなかった人々の想いを想像し、共感を深めてもらう。また、避難所で使われた品々の展示を通して、当時の避難生活の教訓を伝えと共に、現在の防災計画との比較等を通して、災害への日頃の重要さを訴求する。



##### ・避難状況の記録





No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
18-1		救急受入患者名簿	3月12日早朝に、大野病院にいた方々はバスや救急車などで全員避難した。それまでの対応の記録。  ※関係機関と調整し、展示可否確認予定	大熊町 (大野病院)	福島県	記載内容要確認
18-2		・残されたトリアージタグ (大野病院)	※No.32と合わせて、救急患者の受け入れに使用されていたものとして展示検討	大熊町 (大野病院)	福島県	○
			※その他、避難所の様子が分かる写真及びモノ資料について検討中			

#### 3-2 県内に広がる不安

「放射線」という目に見えないものの脅威に初めて晒され、混乱した当時の状況や対応を、放射線の影響範囲や避難指示区域などの情報と共に伝える。また、未だ続く風評の始まりとして、原子力発電所事故により福島県が被った産業への影響の大きさを伝える。



##### ・放射線の影響に関する資料



No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
19-1		・マスク	※原子力発電所事故直後、高い放射線量が計測された地域では、立ち入りが制限され、防護服等を身につけて立ち入らなければならない状況であった。その際、使用されていたものを展示予定。	福島県	福島県	○
19-2		・防護服		購入品	—	○
20		・線量計		—	—	準備中
21		・避難所で配布された安定ヨウ素剤	一部避難所では、放射性物質の飛散に伴い、ヨウ素剤を配布していた。	—	—	準備中

### 3-3 国内外の反応と支援



原子力発電所事故の発生に対する国内外からの反応について、海外の報道映像等を通して紹介する。さらに東日本大震災をきっかけに始まったクラウドファンディングやSNSを活用した支援など、これまでの大規模災害とは異なる取組を伝えるとともに、様々な支援に対する感謝を伝える。



#### ・原子力発電所事故の発生を伝える海外の資料及び海外からの支援

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
※海外の新聞記事等検討中						
22-1		・ウクライナの子供たちからの励ましの絵画		福島県	福島県	○
22-2		・米国マサチューセッツ州の子供たちからの励ましの絵画		福島県	福島県	○

#### ・国内からの支援

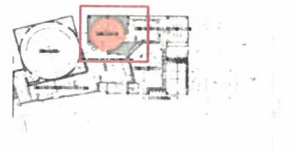
23		・寄せ書き	【メッセージ】 ・大じょうぶですか？私達もできるだけ、節電しています。いつかは幸せな暮らしができるようになります。あきらめないでください。 (個人名)	福島県	福島県	○
24		・折り鶴	【メッセージ】 わたしたちは……復興の様子を見つめてきました。わたしたちにも何かできることはないか……千羽折ると願いがかなうと言われ……このつらがみなさんに、希望を届けてくれると信じています。	福島県	福島県	○
25	Photo	・民間からの支援物資 (衛生用品、防虫駆除剤、歯ブラシ等)		準備中	—	—





## 4 県民の想い

### 4-1 災害時に感じた不安・恐れ

東日本大震災が起きた瞬間、そして原子力発電所事故の発生を知った瞬間、それまで平穩に暮らしていた人々の心によぎった様々な想い。ここでは、震災・事故の瞬間を捉えた記録や痕跡とともに、災害発生時の状況や、災害・事故発生時に人々が感じた恐れや不安について来館者と共有する。






#### ・災害発生時の様子が伝わる資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
26		津波により漂着した腕時計	津波到達時刻で止まってしまった時計。	〇〇〇	〇〇〇	○
27		津波により漂着したぬいぐるみ	大切にしていた思い出の品も津波により失われてしまった。	〇〇〇	〇〇〇	○
28		手記	災害発生時から綴っている日記について、一部を抜粋して展示検討。	〇〇〇	〇〇	○
			<p>※その他、地震及び原発事故発生時の避難の様子等が分かる写真を展示検討中。</p> <p>※「災害の始まり」コーナーではハード面の被災資料、「県民の想い」コーナーでは個人にまつわる被災資料を中心に展示予定。</p>			

## 4-2 楽しかった学校生活と突然の別れ

家族、先生、地域の人々、そして友達に囲まれながら送っていた学校生活。しかし、事故発生により、そんな楽しかった学校生活も失われてしまった。ここでは事故前の子どもたちの学校生活の思い出や、その後の別れや友人達への想いなどを来館者と共有する。


### ・楽しかった学校生活や、避難等による別れに係る当時の想いが分かる実物資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
29-1	 	・新学期席替え表	<p>〇〇〇小学校4年2組教室内。 2011年3月11日時点に貼られていた席替えを示すと思われる貼り付け式の黒板。</p> <p>※教室全体の様子分かる写真と合わせて展示予定</p>	〇〇〇 (〇〇〇 〇)	〇〇〇	○
29-2		・学校新聞		〇〇〇 (〇〇〇 〇)	〇〇〇	○
30		・解体、廃校となる学校へのメッセージが書かれた鏡	生徒たちが、解体・廃校となる学校へのメッセージを記載したものの。	〇〇〇 (〇〇〇 〇)	〇〇〇	○
			※現在収集済のものは〇〇〇小学校のものが多く、他地域の学校(〇〇〇等)についても収集交渉中のため、同等品への差し替え及び追加を検討中。			
			※突然の避難指示により、学校内に残されていた学用品等についても、展示検討中。			

### 4-3 家族との思い出や地域生活と別れ

地域の人々は伝統的な風習や歴史・文化を協力して守ってきた。ここではそれらの記録とともに、事故を機に離ればなれになってしまった故郷の人々への想い等を来館者と共有する。

#### ・家族や地域生活との思い出、別れを示す資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
31	Photo	・○○○○○/田 植え踊り、早乙 女着物 (○○○○○)	震災により社殿、踊りの衣装、 道具なども全て流出したが、 2011年8月にアクアマリンふくし まで行われたイベントで、震災 後初披露。以後継続的に様々 なイベントや仮設住宅等で披露 してきた。この衣装は、その際に ○○の女の子が着用していたも の。	○○○	○○	○
32-1		・野生動物に荒 らされた襖・畳 (○○○)	長期避難していたため、野生動 物に荒らされた被災地の家屋は 多い。イノシシの被害に遭ったこ の家では、襖が傷つけられたり 泥が塗られたり被害の他に、 犬食用に保管していた缶詰の蓋 が開けられ、中の餌が食べられ ていた。	○○○	○○	○
32-2		・野生動物に開 けられた缶詰 (○○○)		○○○	○○	○

### 4-4 生活基盤の喪失と将来への不安

原子力発電所事故は、福島県内の経済・産業へ深刻な影響を及ぼし、人々の生活基盤を揺るがした。また住み慣れた故郷を後に別の場所で生活を送り始めた人々もいる。ここではそれぞれの想いについて来館者と共有する。

#### ・生活基盤の変化や、将来への不安を感じるきっかけとなった資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
33		・出荷制限等に 係る資料		—	—	内容要確 認
			※その他、農林水産業等を営む 方々が受けた原子力発電所事 故の影響が分かる資料を検討 中。			

## 5 長期化する原子力災害の影響

### 5-1 除染

原子力発電所事故後、住民を放射線から守るため、どのように除染が行われてきたのか、また避難指示解除に向け、帰還困難区域で現在進められている除染の状況について紹介する。



#### ・除染関連資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
34-1		・除染作業員用 作業着類	福島県が道路等の除染をする 中で使用していた作業員用の衣 類。	福島県	福島県	○
34-2	Photo	・タイベックスー ツ		福島県	福島県	○
35		・フレコンバッグ		福島県	福島県	○
36		・除染作業員用 線量計		福島県	福島県	○
37	 	・除染作業中看 板 ・帰還困難区域 入口看板(写真)	道路脇には落ち葉や塵・埃・土 が溜まるため、定期的に除染す る必要がある。また、除染目的 の除草作業を道路脇で行うこと もある。この看板は除染作業を している現場を通過する車に除 染作業中であることを示し、安 全に通行することを促すための ものである。 また、帰還困難区域の入り口に は写真の看板が置かれている。	購入品	—	○
38	・除染関係広報冊 子及びDVD	・除染関係広報 冊子及びDVD		—	—	準備中

## 5-2 風評の払拭

原子力発電所が産業に与えた影響とともに、県内で実施されてきた風評払拭の取組を紹介する。



### ・風評の払拭に関係した資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
39		数年分の山菜検査蓄積書類	個人が食品等の放射線量を測定できる検査場を設けている自治体もある。 資料は〇〇〇の方が測定したものの。	〇〇〇	〇〇	○
40		・「検査済レベル」	放射線量の検査を行い、基準を満たしていることを示すことで、消費者の安心・安全に繋げるための取組。	—	福島県	準備中
41		・食と放射能に関する説明会チラシ など	放射線に対する正しい知識を広め、風評払拭に繋げる取組等のチラシ	—	—	準備中
42		・宿キャンセル状況記録 (〇〇〇〇データ)	〇〇〇〇の入り込み客数を示す資料。震災前もゆるやかな減少傾向が認められる。東日本大震災発災時に極端に入り込み客数が減少し、その後はなかなか回復しない様子がわかる。	〇〇〇	〇〇〇〇	○
43		・県他風評対策キャンペーンポスター、チラシなど		—	—	準備中
			※その他、各産業における風評払拭の取組等が分かる写真を解説パネルに入れることを検討。			
			※検査の取組関連資料として、食品検査機器等の展示も検討			

### 5-3 長期避難への対応

長期避難がもたらす問題は、住居、子育て、コミュニティ形成など複合的で、解決は容易でない。長期避難による諸問題を明らかにするとともに、その解決のため現在進められている取組を紹介し、これから何ができるかを考えることにつなげる。



#### ・長期避難に関係した資料



No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
44		・仮設住宅団地案内看板(白河市)	この看板は双葉町民が避難していた白河市郭内応急仮設住宅向けに設置されていた。	白河市	白河市	○
45-1		・罹災証明書			個人	○
45-2		・届出避難場所証明書、居住実績証明書		準備中		
45-3		・〇〇〇臨時通行証	8月14日～16日、9月19日～22日の二度の立ち入り期間のものであり、お盆と秋の彼岸の時期である。墓参りが、避難者と故郷を繋ぐ機会となっていることが分かる。	〇〇〇	〇〇	○
45-4		・ふるさと帰還通行カード、母子・父子避難者等及びその移動経路に係る証明書		〇〇〇 (ふるさと帰還通行カード)	〇〇	内諾済
46		福島県「帰還支援アプリ」チラシ		福島県	福島県	○
			※その他、避難者支援の取組等が分かる写真を解説パネルに入れることを検討。			

#### 5-4 健康不安への対応

原子力発電所事故由来の放射線による健康への影響は、現時点で確認されていないが、震災後、県民の健康状態を把握し、健康維持、増進を図るために実施されている様々な取組についてする。



##### ・健康不安への対応に関係した資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
47		・県民健康調査 基本調査問診票		—	—	準備中
48		・ガラスバッジ	本来は医療従事者など仕事で日常的な被ばくが懸念される人が使用するものであるが、原子力発電所事故後、県民の積算被ばく線量を測定するために用いられている。	川俣町	個人	○
			※その他健康づくり等に関する資料を展示検討中。			

## 5-5 研修・ワークショップ

防災・減災に関する学習やワークショップ、研修が実施できるスペース。様々な資料、機器、装置を活用したデモや検査などの体験を予定。



### ・研修・ワークショップに使用予定の資料

No.	展示資料候補	資料名称	資料情報 ※展示キャプションについては別途精査	収集場所	所有者 (展示可否等確認先)	収集状況
49		・線量計		—	—	準備中
50		・モニタリング機器	<p>左の二つはモニタリングポスト(空間線量測定)の検出器部分である。実際には検出器に監視盤が接続される。原子力発電所事故後、この簡易版が各地に置かれた。一番右のものはゲルマニウム半導体検出器と呼ばれるものである。この資料には含まれないが検出器の上部には測定対象のサンプルをいれる部分があり、また、検出器にはパソコンやプリンターが接続される。この検出器はサンプルから放出される放射線の数を計数するほかに、放射性核種の種類(例えば今回の事故ではセシウムの同位体など)を判別する。</p> <p>※測定用ではなく、展示品として活用予定。</p>	福島県	福島県	○
51		除去土壌等の保管に関する住民説明用模型キット	<p>福島県と住民とが除染物の危険性や取り扱いの方針などを共有する説明会で使われた。ミニチュアのセットは緑色のゴムシート、黒い除染物質のフレコン、肌色の遮蔽土嚢から構成され、実際にどのように仮置き場に除染物を置くのかを説明することができる。</p>	福島県	福島県	○
52		・全量全袋検査機模型	<p>県風評払拭事業の中で、PRパネルと合わせて使用されたもの。</p>	福島県	福島県	○
53	Photo	・食品検査機	<p>シンチレーション式サーベイメータと同じ原理で対象物の放射線を計測する。主に食品などのスクリーニングに用いられた。</p>	○○○	福島県	確認中
54		・椅子型ホールボディカウンター	<p>この資料は体内被曝を測定するためのものでホールボディカウンタ(WBC)と呼ばれる。この資料はお年寄りや子どものために座ったまま測定できる椅子型をしている。双葉町が埼玉県加須市に避難した際に使われていたものである。付随する物品として着替用のパーテーション、椅子に上るための踏み台(手作り)がある。</p> <p>※測定用ではなく、展示品として活用予定。</p>	双葉町	双葉町	○





